

沼津市

明治史料館通信

1988. 10. 25 (季刊 年4回発行) Vol. 4 No. 3 通巻第15号

ぬまづ近代史点描⑩
山中笑・大橋兼久・若林好徳

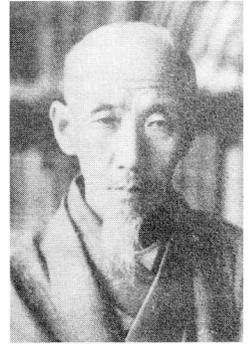


静岡学問所?における若林好徳(右) 若林一夫氏所蔵

御子孫の伝聞によると、若林好徳は静岡藩時代静岡学問所の教授をつとめ、この写真はその当時のものという。学問所の職員名簿には、教授世話心得(のち五等教授)として若林誠三郎という名前が掲載されているが、好徳と誠三郎が同一人物であるかどうかは今のところ不明。

明治期沼津に足跡を残した旧幕臣は数多いが、今回は、キリスト教・民俗学・自由民権運動・弁護士などの分野で活躍した三人の関連ある人物を紹介してみたい。

カナダ・メソジスト派沼津教会の牧師を、明治十二年(一八七九)から十四年(一八八一)、二十七年(一八九四)から二十八年(一八九五)の二回にわたりつとめた山中笑(共古、一八五〇〜一九二八)は、幕府の御家人(伊賀者)の家に生まれ、維新後駿河に移住し、静岡学問所の英学教授となった人物である。明治七年(一八七四)宣教師マクドナルドから洗礼を受け、以後カナダ・メソジスト派最初の日本人牧師としてキリスト教の布教に尽力した。山中は、静岡移住の旧幕臣が形成したクリスチャンの「静岡バンド」の代表的人物であり、沼津で入信した江原素六ともごく近い間柄であった。沼津教会のほかにも静岡・下谷・牛込・甲府・見付・吉原の各教会にも赴任したが、牧師としての仕事以外に、余技として民俗学・考古学の資料収集を各地で行い、その分野の著作を多数残した。柳田国男とも文通し、日本民俗学の先駆者的存在であった。



山中笑

山中の妻は、やはり旧幕臣で静岡学園所皇学局五等教授だった山本忠政の娘沖であるが、その妹つなを妻にしたのが若林好徳である。

若林好徳(一八四五―一九〇一)は、旧幕臣で、静岡学園所の教授をつとめたとも伝えられるが定かでない。明治十一年(一八七八)静岡の高田敬義とともに可進舎を結成し、代言人(弁護士)として活動、浜松支舎を担当した。明治十二年、可進舎退舎後、やはり代

言人の結社である涉明社の社長に就任、翌十三年には靖共社社長に転じ、さらに同年同社を廃し、静岡西草深の自宅で開業した。その後沼津に居を移し、上土町で開業、静岡県組合弁護士会会長などともつとめ、明治三十四年に没した。慈性院好徳日俊居士、墓は東京四ツ谷の榮林寺にある。

沼津の代言人で自由民権運動の闘士として知られた**大橋兼久**(一八四五―?)は、若林好徳の義兄にあたるらしい(好徳の息子にあって大橋は伯父にあたる)ことであるが、若林・山本・山中家のいづれと血縁・姻戚になるのかは不明)。大橋もやはり幕臣で、幕末には幕府騎兵隊取締役をつとめ、

長州征伐にも従軍した。戊辰時に彰義隊に入り、上野戦争を戦った。のち駿河に移住し、富士郡松岡村に住み、小学校訓導や第二大区三小区議員となった。明治十一年(一八七八)沼津に転居し、同十四年に町方町で代言人を開業する一方、岳南自由党に加盟、自由民権運動に奔走した。明治十九年(一八八六)の静岡事件に際しては、直接の関係はなかったとはいふものの、警察に拘引され取り調べをうけている。その後大同団結運動が始まると、明治



若林好徳
明治27年下田にて
(若林一夫氏所蔵)

二十一年(一八八八)、県東部の中心人物として六郡倶楽部を結成した。後藤象二郎を沼津に招き政談演説会を開き、多くの壮士を養うなど、自由党系の活動家として名を馳せた。のちに沼津の町会議員もつとめたが、いつどこで亡くなったのかは不明である。
〈参考文献〉『沼津教会百年史』・『岳陽名士伝』・『静岡現在者人物一覽』・『静岡新聞』・『函右日報』など。



第三圖

山中笑著『共古随筆』さし絵

沼津のおんべ焼(どんど焼)の様子。山中の著作には沼津で採録した民俗・伝説・史話なども多い。

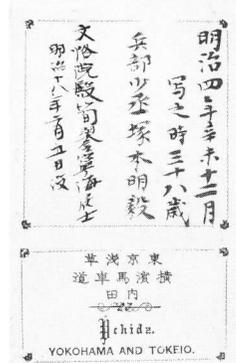


大橋兼久
(若林一夫氏所蔵)

自由民権期、沼津中学校の生徒たちは、「長髪拳を振ひては小事件に大雄弁を弄する」代言人に憧憬したというが、それはまさに大橋のような人だったかもしれない。

陸軍沼津出張兵学寮の職員

職名・氏名	沼津兵学校時代の役職
兵部少丞兼兵学大教授	塚本明毅 沼津兵学校一等教授・頭取
陸軍中佐兼兵学助	大築尚志 同 一等教授・頭取並
陸軍少佐兼兵学権助	浅井道博 同 二等教授
陸軍大尉兼兵学大助教	天野貞省 同 三(二)等教授
同 上	間宮信行 同 三(二)等教授
同 上	黒田久孝 同 三等教授
陸軍大尉歩兵課教官	平岡資始 同 三等教授
陸軍中尉兼兵学中助教	万年千秋 同 三(二)等教授
陸軍兵学中助教	中根 淑 同 三等教授
同 上	石橋好一 同 三等教授
同 上	神保長致 同 三等教授
陸軍中尉歩兵課教官	森川重申 同 三等教授
陸軍少尉歩兵課教官	久須見祐利 同 三等教授
陸軍少尉	羽山宣孝 同 体操方
同 上	本多忠直 同 体操方
同 上	山口知重 同 体操方
陸軍中属	中川冬得 軍事俗務方頭取
陸軍兵学寮十等出仕	沼津兵学校三等教授並
同 上	榎本長裕 同 三等教授(並)
同 上	榊 綽 同 教授方手伝
同 上	小野清照 同 教授方手伝
同 上	杉浦 清 同 三等教授並
曹長調馬掛分課	岩波勝常 同 調馬方
同 上	並木元節 同 調馬方
曹長	小山信需 軍事俗務方頭取介
兵学権中属	増井以孝 軍事俗務方
権曹長	斎藤純孝 軍事俗務方
兵学少属	長谷川安貞 兵学校附属小学校体操教授方
同上	若杉秀行 軍事俗務方頭取介
一等軍曹	福島惟成 軍事俗務方介
兵学権少属	大野寛柔 軍事俗務方介
同上	芳村 堯 軍事掛筆生
陸軍兵学寮十三等出仕	小野昌外 軍事掛筆生
同 上	吉田信孝 軍事掛筆生
同 上	鈴木高信 軍事掛筆生
同 上	千野光謙 軍事掛筆生
同 上	笠島重易 軍事掛筆生
同 上	石丸義孚 軍事掛筆生
同 上	鈴木貴道 軍事掛筆生
同 上	高木利重 軍事掛筆生
陸軍兵学寮等外三等附属	滝野貞豊 沼津勤番組六番頼世話役
同 上	久下忠重 軍事掛附出役
同 上	小出元貞 軍事掛附出役
同 上	中野益行 軍事掛附出役
同 上	石黒武茂 軍事掛附出役
同 上	平井利正 軍事掛附出役
同 上	小川信利 軍事掛附出役



シリーズ
沼津兵学校とその人材 ⑭
陸軍沼津出張兵学寮

◀塚本明毅
明治4年12月
兵部少丞就任
直後の写真
(塚本学氏提供)

明治四年(一八七二)七月廃藩置県が行われ、同九月晦日沼津兵学校は政府兵部省の管轄となった。そして、十二月十六日には「沼津出張兵学寮」と校名が改称された(文献・史料によっては、陸軍沼津出張兵学寮・陸軍兵学寮沼津分校・兵学寮出張所などとも称す)。以後明治五年(一八七二)五月十一日に東京に引き払われるまでの

半年前後の間、沼津には大阪(のち東京)の陸軍兵学寮の分校が存在したことになる。その時点まで政府に引き抜けないでいた沼津兵学校教授や静岡藩軍事掛の職員たちは、四年十一月から十二月にかけ、新たに政府の官職に任命された(表参考)。生徒たちは従来と変わることなく修業料を支給され、勉学につとめていたというが、やはり動揺は大きかったらしく、廃藩から兵部省移管・東京移転までの期間中に相当数の生徒が退校していったものと思われる。最盛時の二百数十名に対し、東京に移転される最後まで残った生徒はわずか六十三名であった。(参考文献)「石橋紘彦「沼津兵学校沿革(七)」

お知らせ欄

◎観覧記念スタンプを製作

かねてから観覧者より観覧記念のスタンプの要望が寄せられておりましたが、館ではこのほど2種類の観覧記念スタンプを製作いたしました。

このスタンプは、館の建物外観を描いたものと、3階展示室内にある江原素六翁の旧邸移築家屋をスケッチしたものの2つで、版画調の素朴さを感じられるデザインに仕上がっています。ともに市立金岡中学校教諭後藤知由氏の作品になるものです。



館の観覧記念スタンプ2種

館ではこれをインク自動補給型のスタンプに製作しました。大きさは8センチ角の正方形で、黒のインクを使用しています。玄関ロビーに設置していますが、図書室の子供や展示室を訪れた観覧者が帰りがけに気付いてパンフレットに押す姿が増え、静かな人気を呼んでいます。

◎昔の教科書をさがしています

館では、今年度の冬のテーマ展として昔の教科書を集めた展示会を開催します。そこで、市民のみなさんのご家庭に残された古い教科書で出品・提供していただけるものを募集しています。特に戦前、戦中のもや終戦直後の墨塗りの教科書などについて、情報がありましたら館までご一報下さい。

◎昔の教科書展を開催

とき.. 12月20日(火)~64年2月26

日(日)

ところ.. 明治史料館 4階展示室

◎古文書解読入門講座が盛況

前号で募集した古文書解読入門講座が、10月7日から11月11日まで毎週金曜日、計6日間の日程で始まりました。

今年の講座は市立駿河図書館の講座と時期や夜間という時間帯設定が似通っていたため、受講者の減少も懸念されていたのですが、新聞、ラジオ、テレビの宣伝もあってか、定員を大きく上回る受講申込みがありました。本格的な生涯学習時代の到来かと、職員一同大いに奮起しています。

締切後に申込みをいただいた皆様には、お断りをお知らせいただき、誠に申し訳ありません。紙上を借りてお詫び申し上げますとともに、ぜひ来年もご応募下さいますようお願いいたします。

◎金岡婦人会が毎週の生け花奉仕

館の玄関ロビーや3階展示室の江原邸移築家屋の床の間には、いつも花が活けられていて、観覧者の目を和ませています。

毎週このお花を活けに来ていただいているのは、地元の金岡婦人会の推薦を受けた近隣のボランティアの方です。

昭和59年10月の開館時、生け花のボランティアを始められたのは鳥谷の三井智子さんでしたが、翌年にはご自身の都合で継続できな

くなったため、その後を依頼した先が金岡婦人会でした。

以来、初代の山田菱子さん(西熊堂..2年間)、古地朝子さん(東沢田)と、リレーで奉仕を続け、今年の奉仕を担当しているのは、山田吉子さん(西熊堂)。

生け花を活けるだけではなく、水の見回りにも訪れる熱心さで、職員一同頭の下がりっぱなしです。



生け花奉仕の山田吉子さん

沼津市明治史料館通信 第15号

編集 沼津市明治史料館
発行

〒410 沼津市西熊堂372-1

☎〇五五九(23)三三三五